

多く寄せられる質問へのお答えです

①勉強の仕方を教えて

学校の授業を大切にしよう

授業時間内に習った内容をしっかり理解できることが一番です。授業中は先生の話に集中する。宿題を忘れない。わからぬところがあればすぐ質問をして自分のものにしておく。実際には難しいことかもしれません、授業中にできるだけ多くのことを理解できれば、あの勉強も楽になり、学習計画も立てやすくなるのは確かです。まず授業を大切にする姿勢が成績アップの早道なのです。

中間・期末テストや模擬テストのやり直しをしよう

成績を上げるには、苦手をなくす努力が必要です。わかっているところを繰り返しやるより定期テストや模擬テスト、また問題集等で間違ったところを見直し、そして復習をしておくこと。つぎに同じような問題が出たら絶対にミスをしないことが大切です。

②志望する高校へ行けるでしょうか

目標を持とう

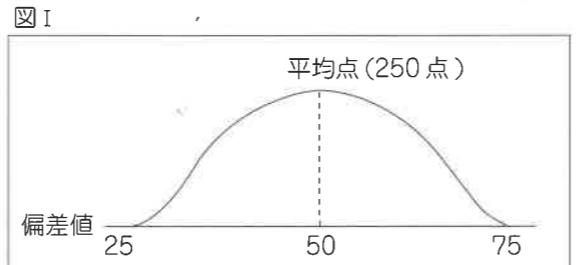
3年生になれば、まず目標を作ることです。目標があれば勉強にも張り合いが出ます。「〇〇高校に合格するぞ」「今度のテストで〇点以上取るぞ」など、何でもいいので勉強に先立って目標を立てるようにしましょう。

何でもすぐにやる習慣をつけよう

やる気が心の中に芽生えたらすぐ行動にうつしましょう。「ちょっと後で」なんて考えているとたちまち消えてしまうのがやる気なのです。「やろう」と思った瞬間に勉強に取り掛かる習慣をつけておくことが大切です。

③問題作成にあたってまず考えることは

模擬や実力テストは、平均点が250点前後で、偏差値の上限が75、下限が25程度に収まるようなきれいな正規分布（図I）の形になるテストが理想的です。ふじいの奈良県統一模試（以下「ふじい模試」）では県内の中3生が全員参加した場合にそのような正規分布になるような問題作りを心がけています。それによって同じ高校を志望する生徒の平均点もほぼ同じになります。ふじい模試ではその年に参加される受験生の傾向や学力等を理解したうえで、問題作成をして結果につなげることが大切だと思っています。



④個人票の中に2つの偏差値があるのはなぜ？

偏差値は「どんなテストで、受験生は何人で、その学力は？」によって大きく変わります。例えばあるテストで受験者全員が奈良高校を目指す生徒だとしたら、平均点はすごく高くなってしまいます。その高い平均点のところが偏差値50になります。ふじい模試ではこれを補正するために、奈良県内の中3生全員が受験した場合に予想される偏差値を独自に提示しています。これが「推計偏差値」です。

「推計偏差値」を表示することで、ふじい模試のどの回を受けられても比較検討していただけると考えています。

⑤志望校を判定するときに使う基準ってなに？

志望校の各学科に基づいて偏差値を定めて評価するのが一般的ですが、それに使用する偏差値が上記④で説明したように不確定な数値であれば、評価も確かにとは言えません。そこでふじい模試の公立高校の評価については独自にその高校・学科を志望している生徒の成績を分析し、学科ごとの志望校偏差値を計算して判定を出しています。

また、公立高校でも参加者が少ない場合や私立高校についての評価は過去のふじい模試参加者の成績等を参考にした数値を使って評価しています。また私立高校の場合は、協賛の五ツ木模擬のデータを参考にしてふじい模試とのデータの相関を取りながら評価しています。

⑥判定の表示で、A～Eはどう理解したらいいの

各高校の学科ごとに受験者の成績を分析しデータを作成しています。

A…各高校の学科定員の上位20パーセント内の生徒

B…Aを除く上位50パーセント内の生徒

C…A Bを除く上位80パーセント内の生徒

D…それ以下の生徒

E…今回の成績では、合格の可能性は低いと思われます。

Cの表示でも合格できる範囲にいると思いますが、安心できません。みんな入試に向けてがんばっていますので気を抜かないでください。またDやEと表示されても絶対にダメというわけではありません。入試は内申点や実技、面接などの評価も加点されるのです。

⑦志望校推計順位ってあるけど、なに？

⑤で説明したように学科ごとに受験者のデータ（志望校偏差値）を作成しています。偏差値は正規分布の面積率から求める数値を使って前年・前々年の受験者数に当てはめていくと予測順位が出てきます。実際の入試では上位校からの志望校変更などにより受験者の移動があることが考えられますので、そのことも考慮して判断してください。

⑧推計内申点の見方について

内申点は、学校での日頃のがんばりを評価する点数で、ふじい模試では今回の成績から算出した数値を使っています。内申点は各教科の総合点の上位から加点していくので、おおよその数値は予測できます。

評価については、各教科15点×9教科=135点を基準にしています。高校によっては加重配点を考慮する必要がありますが、ふじい模試では加重配点部分は加味していません。

⑨志望校表にのっている県外私立高校は、なぜ限られた学校だけなの。五ツ木模擬との関連を教えて

奈良県から行ける高校または県内から志望者の多い高校を対象にしているからです。ふじい模試の受験生は県内の中3生だけなので、もし全員が参加されたとしても約12000名程の分母しかありません。県外の私立高校全てを対象とした場合、志望校が少ない学校では詳しいデータが作成できない状況も予想されますので、奈良県内からの志望者の多い高校を選択して志望者が分散することを避けています。

ただし、もし受験した回の志望者が少くとも、協賛の五ツ木模擬との偏差値の相関も考慮しながら評価をしていますので安心してください。

⑩第二志望・第三志望の順位はどのように決めているの

第二志望は、第一・第二志望者、第三志望は、第一～第三志望者全員を対象にし、点数順に並べて、順位を出しています。

⑪項目別達成度診断や問題別正誤表の利用方法は

ここがもっとも重要、成績アップにつながります。

それぞれの受験生には苦手な教科や単元があります。その苦手な箇所をどう無くしていくかが大切です。そこあなたが志望している公立高校に行くには何に力を入れて勉強すればいいのか、また自分は何が不足しているのかを把握することで、入試の本番に備えていくことが大切だと考えています。

問題別正誤表では小問ごとにどこが正解でどこが間違いか一目でわかるようにしています。さらに問題番号が赤く表示されているところはあなたと同じ志望校をめざす受験者の大半が正解している問題です。すぐに見直しをして確実に復習しておきましょう。またここでは第一志望だけでなく、第二志望・第三志望の情報も表示して選択の幅が広がるようにしています。個人票の中でも受験生に大いに活用していただきたい部分です。

⑫〇〇高校へ行きたいけど模擬テストで何点取ればいいの

テストの難易度やテストの参加者の変動によって合格可能な点数は変わってきますので、一概に〇点とればいいとか、またあと〇点必要ですとは言えません。しかし高校によって目標にしてもらいたい点数はあります。個人票に目標点数として表示しています。ふじい模試を重ねて受験されることで志望校が明確になってくるはずです。